

●p.vi 目次

11.2 音の伝搬 → 11.2 音の伝播

●p.15 下から5行目

 h は流体の内部エネルギー e および... → h は流体の比内部エネルギー e および...

●p.23 6行目

性分 → 成分

●p.36 図4.6 キャプション

日本機械学会『写真集』 → 日本機械学会『流れ：写真集』

●p.51 6行目

 $\varepsilon = 2.5 \times 10^{-4} \text{ mm}$ → $\varepsilon = 2.5 \times 10^{-4} \text{ m}$

●p.58 図6.6

左端の文字 W_{uto} → W_{out}

●p.74 9行目

式 (7.20) 右端 $\frac{d^2}{v}$ → $\frac{d^2}{v} g$

●p.109 下から7行目

運動方程式 (8.26) および式 (8.43) ~ (8.45) に帰着する.
→ 運動方程式 (8.43) ~ (8.45) に帰着する.

●p.119 11行目

となり、運動量の排除を表す…

→ となり、式 (7.4) で定義した、運動量の排除を表す…

●p.124 8~10行目

…壁のごく近傍の渦構造、境界層厚さ程度のスケールの渦構造など、多層的な渦から…
→ …壁のごく近傍の渦、境界層厚さ程度のスケールの渦など、多層的な渦構造から…

●p.124 下から2行目

式 (10.97) $\frac{\partial \bar{u}}{\partial y} = \frac{\tau_w}{\mu} = \frac{u^*{}^2}{v}$ → $\frac{\partial \bar{u}}{\partial y} \left(= \frac{\tau_w}{\mu} \right) = \frac{u^*{}^2}{v}$

●p.125 5行目

壁面摩擦応力に近い領域 → 壁面摩擦応力に近くほぼ一定の領域

●p.125 8行目

両者はおおむね比例する → (削除)

●p.125 12行目

渦の長さスケールを $l=ky$ と置くと、→ 渦の長さスケールを壁からの距離 y に比例する $l=ky$ と置くと、

●p.149 15行目

演習問題解答 3.5 $[(P_{z+\Delta z} - P_z) \pi \dots \rightarrow [- (P_{z+\Delta z} - P_z) \pi \dots$

●p.150 1行目

 $r=a$ → $r=b$

●p.155 5行目

演習問題解答 7.3 $\dots = \frac{\dots}{0.4 \times 1.0 \times \left(\frac{144 \times 10^3}{3600} \right)} = 36.8 \text{ m}^2$ → $\dots = \frac{\dots}{0.4 \times 1.0 \times \left(\frac{300 \times 10^3}{3600} \right)} = 8.5 \text{ m}^2$

●p.156 15行目

∴ のあとの u をイタリックに

●p.161

索引項目 エネルギー散逸 27 → エネルギー散逸 27, 126

●奥付

編者略歴を修正

1982年 東京工業大学大学院総合理工学研究科博士前期課程修了

→ 1984年 東京工業大学大学院総合理工学研究科博士前期課程修了

神戸大学工学部教授

→ 神戸大学大学院工学研究科教授